

平成 29 年度 学校評価実施報告書

幼稚園名 (中京もえぎ 幼稚園)

<p>1 幼児が主体的に遊ぶ姿を重視する 保育の改善・充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 「主体的に遊ぶ」「好奇心や探究心を育む」ということについてまず教員間でしっかりと話し込み、エピソードをとり共通理解する。 幼児が自ら周りの環境に関わり、「探究心や好奇心を育む」環境の在り方や教師の援助について検証する。 <p>(取組結果を検証する) 各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 幼児の遊びのエピソードを取る。 環境や援助が適切であったかどうか 子どもの言葉や態度の変容を探る アンケート項目「子どもたちは幼稚園でいろいろなことに興味を持って遊んでいますか」「子どもたちは幼稚園で遊ぶことが好きですか」 	
<p>各種指標結果 (1回目)</p> <ul style="list-style-type: none"> 「探究心や好奇心を育む」ということについて本園の実態や課題を共通理解し、エピソード研修や研究発表会において公開保育をすることで、どのような経験が大事であるか、今後どのような見通しをもって保育していくべきかなど考察することで、幼児理解が深まり、教師の援助や環境構成の改善につながった。それに伴い、子どもたちも自ら環境にかかりわり、主体的に遊ぶ姿の変容が見られた。 アンケートの結果「大変そう思う」「そう思う」を合わせて 97 パーセント以上 	
自己評価	<p>分析 (成果と課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> 一学期に研究発表会をし、エピソードをまとめることは、本園の今年度の実態や課題が全教員で共通理解でき、子どもの姿のとらえ方や遊びの環境などについての意識が高まり、子どもが夢中になって遊ぶ姿がみられた。 保護者のアンケートの結果について、少数でもそう思わない回答した保護者がいる。保護者の思いを聞き、担任の思いも伝えながら、幼稚園への信頼を築いていく。 <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> 子どもたちは自分の思いを出したり、友達など他者に关心をよせたりしている。しかし、自分たちが生活の主体者であるという意識が薄い姿も見られる。今後、子どもたちが自ら考え、自分たちで生活をつくっていくことを大事にしたい。
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> 保護者も教員もまずは、子どもができたこと、現状を前向きに受け止めることが大事であろう。次へその上へといこうとするから、出来ていないという思いになってしまってはいかない。他の人と比べたりすることをせずに子どもはできていないことがあって当たり前である。自分の子どもがここまでできているという思いをもつことが大事であろう。
評価	評価日 平成 29 年 10 月 20 日 評価者 学校運営協議会
<p>各種指標結果 (2回目)</p> <ul style="list-style-type: none"> 後期も学期ごとに学級担任をもつすべての教員が主題に添ったエピソードを記述し、学年会にて検討し、それを基に発達をとらえた学年ごとの「好奇心・探究心」について考察した。 研究保育の研究協議や行事の打ち合わせの際などに、学年の発達に応じた環境や遊び、個々の課題に応じた援助などについて研修した。 アンケートの結果「大変そう思う」「そう思う」を合わせて 99 パーセント 	

自己評価	<p>分析（成果と課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> 各学年の学期ごとの「好奇心・探究心」をエピソードから導き出した。そのことは、自分の保育や自分が記した個々のエピソードから発達を考えまとめ、目に見える形となったことが教員の自信となった。 教員が、研究保育や行事などを通して、環境を丁寧に整えることで、子どもの遊びが充実し、子どもたちが友達とかかわりを深め、遊びを楽しむ姿がみられた。 子どもたちが自分で主体となって遊びや生活を進めていくという意識は、まだまだ個人差が大きい。引き続き大事にしていきたい。 		
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> 保育を充実させること、幼児理解を深めること、丁寧な環境構成と教材研究について、引き続き園内研修の充実と共に次年度も取り組む。 子どもの「好奇心・探究心」を育むためには、子どもが自ら関心を持ち続けることができる魅力的な環境構成が大事である。そのために、教師自身が探究し続け教材研究したり、自ら感性を磨き続けたりすることの大しさを再確認した。 		
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> 保護者の自由記述を見ると、大変よく書いていただいている。3歳児の保護者の方も様々なことを感じて下さっていて、幼稚園が保護者に子どもの様子をしっかりと伝えていることがわかる。 		
	<table border="1"> <tr> <td>評価日 平成30年3月13日</td> <td>評価者 学校運営協議会</td> </tr> </table>	評価日 平成30年3月13日	評価者 学校運営協議会
評価日 平成30年3月13日	評価者 学校運営協議会		

自己評価	<p>2 小学校への学びにつなぐ「学びに向かう力」を育む 幼小接続の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> 幼児が自ら周りの環境に関わり、夢中になって遊びこむことを通して、様々な感情を味わい、主体的に取組む意欲や態度などを培うことが、幼児期の大きな学びであることの認識を深める。 幼小教員間の連携を密にし、接続期の大切さについて共通認識をし、接続期のカリキュラムについて共に考える機会をもつ。 <p>(取組結果を検証する) 各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 互いの保育や教育を見る機会をもつ 交流の事前事後の研修会をもつ 幼小接続のカリキュラムについて話し合う <p>各種指標結果（1回目）</p> <ul style="list-style-type: none"> 園内研修の研究保育に小学校の教員が参加したり、幼稚園の教員が小学校の授業を一日参観にいったりなど、昨年からの取り組みを継続して行うことができた。 交流について、どのようにすすめていくのか幼稚園、小学校、保育園の幼小接続主任を中心連絡を取り合い、事前の打ち合わせをした。 接続期の幼児、児童の実態やどのようなことが大事なのか話をすることができた。
	<p>分析（成果と課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> 幼児期の生活を知ることで、小学校の接続期の児童がどのような思いをもつのか、小学校教員が気付くきっかけとなった。 交流のあり方について、どのような経験を子どもたちに願うのか、共通理解を図ったが、互いの思いや願いなど、深く話し合うことは難しかった。 幼小の接続期における互いの担任の思いを伝えることはできたが、カリキュラムにまで話が及んでいない。

	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・取組が組織的なものになるよう今後も継続していく。 ・交流を行うことで、子どもたちがどのような経験をしているのか、事後の研修会で幼小の教員の互いの思いを伝え合う。 ・接続期のカリキュラムについて幼児期に育まれた心をどのようにつなぐのか小学校へ発信していく。
学校 関係者	学校関係者による意見・支援策
評価	<p>評価日 平成29年10月20日 評価者 学校運営協議会</p>
各種指標結果（2回目）	
<ul style="list-style-type: none"> ・生活科や総合的な学習や給食参観などの交流を通して、互いの子どもの様子や教育を見る機会をもった。 ・それぞれの行事の前後に子ども同士は手紙やビデオなどで、互いにやり取りをし、教員同士は打ち合わせをもった。 ・就学に向けて子どもの様子などについて連携し、接続期の子どもたちの様子について小学校の教員に伝えた。 	
自己評価	<p>分析（成果と課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまで継続してきた交流の行事について、昨年度までの取組を継続して行うことができた。さらに、今年度は幼稚園の子どもの思いをビデオ撮影して小学生に伝えたことで、互いの子どもの学びが深まった。また、教員にも新たな気づきがあった。 ・小学校の一年生や幼稚園の年長児の子どもたちの様子を知ることで、小学校での一年間の成長の様子を知ったり、幼児期の就学前の子どもたちの様子を知ってもらうことができた。 <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・来年度も引き続き、取組を継続していく。 ・一年生の子どもの思いについて、幼稚園の教員から見た思い、小学校の担任の思いを互いに交流することによって子ども理解が深まった。来年度も互いに思いを出し合える関係を大事にしたい。
学校 関係者 評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校の校長先生を招いての家庭教育講座は、大変有意義であろう。幼児期から、たくさんの保護者に関心をもって聞いてもらいたい。 <p>評価日 平成30年3月13日 評価者 学校運営協議会</p>

3 自ら体を動かす意欲を育て、基本的な生活習慣を形成し、自信と自立心を育む

心と体・生活習慣

- ・一人一人の生活習慣について的確に把握をし、定着するように家庭とも連携を取りながら指導を重ねる。
- ・学年により、体を動かすことの楽しさが感じられるような遊びの場を提供したり、教師

<p>も共に遊ぶことでより楽しさが感じられるようとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 京都御苑や六角堂など歩いていける園外保育を積み重ねることで、心や体を強くしたり、自然の中で遊ぶことの楽しさを味わう。 			
<p>(取組結果を検証する) 各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 一つ一つの生活習慣について確認をし、定着を図る 子どもたちが体を動かす楽しさを感じる遊びが繰り広げられる。 安全指導や生活習慣の指導がきちんと週案にあがる アンケート項目「子どもたちは自分で自分のことをしようとしていますか」「子どもたちは体を動かして遊ぶことを楽しんでいますか」 			
<p>各種指標結果（1回目）</p> <ul style="list-style-type: none"> 基本的生活習慣の自立については個人差が大きい。 公園をどんどん活用し、「走る」ことができた。 安全指導や生活習慣の指導について週案に明記されるようになってきた。 アンケートの結果「大変そう思う」「そう思う」を合わせて97パーセント以上 			
<p>自己評価</p> <p>分析（成果と課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> 衣服の着脱や持ち物の始末など、必要感や周りの状況などを感じて自らしようという気持ちを持つことが難しい姿や、自分自身で出来ることに気づいておらず、やってもらうことが当たり前になってしまっている姿などが見られる。 自分の力を出して体を動かす心地よさを感じることができた。 週案への記載については教員によって意識に差が見られる。 保護者は基本的生活習慣の定着について、自分でしようとする気持ちが育っていると評価している。しかし、持ち物を忘れた時などに、「お母さんが忘れた」と子どもたちから聞かれるなど、自分のこととしてとらえることが難しい姿が見られる。 			
<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> 引続き、自分で必要感を感じ身の回りの始末をすることができるよう、自分でできる気持ちよさを認めながら丁寧にかかわっていく。 公園を継続して活用し、体を動かして遊ぶことを充実させていく。 週案に記録する大事さを意識し、明記することを徹底していく。 子どもが主体的に自分で生活することを意識することができるよう自分のことであることを繰り返し伝えたり、家庭とも協力しながら子どもたちは自分の生活に見通しを持ったり自分で生活していくことの心地よさを感じができるようにしていきたい。 			
<p>学校関係者評価</p> <p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> 運動会で子どもが走っている姿、しっかり手をふって、膝が上がっていた。土の上を走るということの大変さ、子どもの姿が教育の証である。公園の活用については地域も活性化して喜んでいる。小規模保育ルームも公園を活用しながら、幼稚園の子どもたちの姿を見ている。互いにとっていい経験になっているだろう。 			
<table border="1"> <tr> <td>評価日 平成29年10月20日</td> <td>評価者 学校運営協議会</td> </tr> </table>		評価日 平成29年10月20日	評価者 学校運営協議会
評価日 平成29年10月20日	評価者 学校運営協議会		
<p>各種指標結果（2回目）</p> <ul style="list-style-type: none"> 基本的生活習慣の自立について、ほとんどの子どもたちが自分で出来る喜びを感じ、自らやろうとしているが、個人差も大きい。 公園を利用し、マラソンやサッカーなど、体を動かして遊ぶことを楽しむことができた。 安全指導や生活習慣について、週案に明記され、教職員の意識が向いてきている。 アンケート結果「大変そう思う」「そう思う」を合わせて95パーセント 			

自己評価	分析（成果と課題） <ul style="list-style-type: none"> 幼稚園の一年の生活を通じて、自分でしようという気持ちが育ってきている。しかし、まだ、個人差が大きい。 公園を利用して、千方百計に体を動かす遊びを楽しむことができた。 保護者の意識が、「できていない」という姿に目が向きがちである。
	分析を踏まえた取組の改善 <ul style="list-style-type: none"> 引き続き家庭と協力しながら、基本的生活習慣の自立に向けて取り組んでいく。 公園をどんどん活用し、体を動かして遊ぶことを充実させる。 全教職員で幼稚園の安全に対する環境への意識をもち、子どもたちの様子などについての丁寧な見取りを継続して行う。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 <ul style="list-style-type: none"> 園外保育の持ち物の用意など保護者自身が意識をしないといけないこともある。保護者自身が関心をもつこと、子どものことを優先しないといけない時には優先するといった意識が必要だろう。 公園にベンチを設置していただいた。親子でさらに公園が体を動かして遊び、集う場になればと思う。
	評価日 平成30年3月13日 評価者 学校運営協議会

4 自己発揮と自己抑制の調和のとれた自律性（折り合う心）を育む保育を推進する

信頼関係・折り合い・自己肯定感・公共心の芽生え

- 幼児期に、周囲の大人から自分は大事にされている、愛されているという感覚を味わうことが大切である。幼稚園においても教師と十分信頼関係を築き、安心して自分を出し自己発揮しながら生活を進めることができるようにすると共に、よりよく人との生活や遊びを進めていく中では、自分の気持ちを調整することが必要であることすなわち折り合う心をもった幼児を育てていけるようなかかわりを大切にした保育を展開する。

（取組結果を検証する）各種指標

- 教師との信頼関係を築くことで幼稚園が安心の基地になり、自分の思いを出しながら遊ぶ
- 友達とのかかわりを通して、葛藤したり、喜んだり、様々な心を揺らしながら遊ぶ
- 人と遊んだり生活をしたりする中で、気持ちを調整して遊ぶことの大切さに気付く
- アンケート項目「子どもたちは、安心して幼稚園に通っていますか」
「自分の思いを出しながら、友達と遊んだり生活したりする楽しさを感じていますか」

各種指標結果（1回目）

- アンケートの結果「子どもたちは幼稚園に通っていますか」98パーセント
- アンケートの結果「自分の思いを出しながら、友達と遊んだり生活したりする楽しさを感じていますか」93パーセント
- ほとんどの子どもたちが幼稚園に安心して登園し、教師や友達とのかかわりを楽しんでいる姿が見られる。様々な行事や友達とのかかわりの中で、不安定な様子も見られる。
- 自分の思いが自分でわかること、思いを表現する姿が見られるようになってきた。

自己評価	分析（成果と課題） <ul style="list-style-type: none"> 保護者の安心や信頼関係が子どもたちの安心につながってくる。保護者との関係を築いていく事が大事であろう。 教師や保護者が、子どもたちの経験を先取りしてしまうのではなく、子どもたち自身が様々な経験をしていく事が大事である。 遊びの中で様々な心を動かし、様々な思いをもつこと、それを自分なりに表すことが大

	<p>事であろう。嬉しい、楽しい、悲しい、悔しいなど様々な感情体験をしていく必要がある。</p>		
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者も安心できるように個人懇談の機会などで、個別に思いを共有し、信頼関係を築いていく。 ・集団生活の中で見られる様々な経験全てが、子どもが向き合い乗り越えようとしていく大事な経験となっていく事を丁寧に伝えていく。 ・遊びを充実し、担任を中心に教師や友達とかかわりながら、自分の思いを出し、様々な感情に向き合うことができるよう支える。 		
学校 関 係 者 評 価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園の教育の中で、学校運営協議会や地域の大人が、様々なにかかわっていくことが、子どもたちの成長には大きいだろう。今後も協力していきたい。 ・運動会の様子から、教師が、一人一人の子どもに応じて、様々な姿や思いを受け止めていることがよくわかった。 <table border="1"> <tr> <td>評価日 平成29年10月20日</td> <td>評価者 学校運営協議会</td> </tr> </table>	評価日 平成29年10月20日	評価者 学校運営協議会
評価日 平成29年10月20日	評価者 学校運営協議会		
	<p>各種指標結果（2回目）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケートの結果「子どもたちは幼稚園に通っていますか」98パーセント ・アンケートの結果「自分の思いを出しながら、友達と遊んだり生活したりする楽しさを感じていますか」98パーセント ・子どもたちが教師や友達とのかかわりを楽しんでいる。様々な行事や遊びの様子から保護者も子どもの成長を喜んでいる。 		
自己 評 価	<p>分析（成果と課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活発表会などの機会に子どもたちの成長の様子を見てもらうことができ、保護者も安心している。 ・年長児の保護者は、友達とのかかわりの中で見られる、負の感情もこどもにとっては、大事な経験だと捉え、見守って下さっている。 <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・来年度も引き続き、子どもたちが、まずは安心・安定したようちえん生活を送ができるように担任との信頼関係を大事にしていく。 ・子どもたちが様々な経験を積み重ねていくことが出来るように保護者ににもその大事さを伝え、共に支え見守っていくことができるよう取り組んでいく。 		
学校 関 係 者 評 価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者は目に見えてできないことに目を取られてしまうが、伝で射た地から、子どもの様子や今後の見通し、今はそれで大丈夫と言っていただくと安心できる。そのようなことを今後も大事にしていってほしい。 <table border="1"> <tr> <td>評価日 平成30年3月13日</td> <td>評価者 学校運営協議会</td> </tr> </table>	評価日 平成30年3月13日	評価者 学校運営協議会
評価日 平成30年3月13日	評価者 学校運営協議会		

園独自の項目

(取組結果を検証する) 各種指標	
各種指標結果（1回目）	
自己評価	分析（成果と課題） 分析を踏まえた取組の改善
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策
	評価日 評価者
各種指標結果（2回目）	

自己評価	<p>分析（成果と課題）</p> <p>分析を踏まえた取組の改善</p>
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策
評価日	評価者